

俳句

6月20日(土)

高知市春野新秋山 西宮 穂間香

合田青軒

友の薔薇剪つて米存も扱はるる

而子苗も高小寺鏡のなんでも屋

吉本伸秋

白銀の滴転ろかせ運若葉

一陣の風や青田の吹き窪み

小笠原マチモ

梅雨寺を囲む白壁築地堀

先登やまつそふ轆轤回る音

7月19日(土)

当季雑誌

合田青軒

片陰や梁太き追手門

参道の続く限りの蝉時雨

吉本伸秋

十葉のには小男に道を聞く

楊貴妃も度美人もまろ鏡の花

小笠原マチモ

野分行くカラシコンと缶蹴って

浸宵の野分に耐へて咲きつづく

三十五冊の思い出

シーズンⅡ

松山 和雄

プロローグ

「三十五冊」、皆さんはこの数値から何を連想しますか。よほど写真に興味のある人でなければ、すぐにカメラのフィルム幅を思いおこすことはないでしょう。デジカメ一辺倒になってしまった昨今ですが、二十年ほど前まではカメラと言えば、三十五冊フィルムカメラのことでした。

退職後、旅行の機会が増えて写真も多くなりました。デジカメを手にしたからはとりあえずあれもこれもとシャッターを押してしまっています。でも、少し時間をあけてその写真を見ても、以前のようにその時の情景が浮んでくることはありません。最近になってやっとその訳がわかりました。頻繁で安易なシャッターが「記憶の時間」を奪ってしまったのです。

四八年前、教員になったのを機に、長いローションを組んで「ニコソフ」を買い、京都や

高知市立自由民権記念館

友の会に入会しませんか！

高知市立自由民権記念館は、25年前高知市制百周年の熱気の中で1990年に誕生をしましたが、「友の会」も同い年になりました。1974年の立志社創立百年や1981年から続いた自由民権百年の取り組みの中で、「高知に自由民権記念館を」という記念館建設運動が生まれました。時は、中曽根内閣で教育の反動期でもありました。記念館建設後には、建設運動を担ってきた県民・市民（県教組、高教組、高退協の仲間等）が友の会に参加しました。

建設運動のメンバーの中には、高退協の仲間であり先輩であった梅原憲作さん、門田豊さん、美馬敏男さん（共に建設期成会準備会メンバー）たちや、内田長雄さん、加藤菊さん、窪田充治さんをはじめ多くの高退協の方々が友の会の役員を引き受けて活動を牽引してくれました。

しかし、当初の友の会メンバーも高齢となり、友の会の活動への参加が難しくなってきた、自然と会員が減少してきています。そこで、改めて、高知市立自由民権記念館友の会での加入を訴えます。年会費は2千円です。高知市立自由民権記念館友の会事務局まで連絡下さい。加入用紙と資料を送付します。

住所 高知市棧橋通4-14-3 電話 088-831-3335

奈良に足を運んでは杜寺建築を撮って教材のスライド造りに精をだしていました。当時としては破格に高価だった外国製のリバーサルフィルム（スライド用フィルム）を装填して、一枚一枚時間をかけて慎重にシャッターを切ったものです。その時その場所の風や音そして香りまでも全身で感じながら、今でもスライドを見れば、その時の情景がよみがえります。

それらのスライドは、専門学校の非常勤となった現在もデジタル化して授業に使っています。授業の前日、明日の予習でスライドを見るひと時は、時空を超えて彼の地に旅のできる私の幸せな時間となります。前回、高退協ニュースに不定期で（早い話、原稿が少ない時の穴埋め用に）一年半あまり「三十五冊の思い出」と題して、京都や奈良などの紀行文を載せていただきました。その時に紙面に載らなかったものを含めて今回寄稿させていただきます。

次回予定 浄瑠璃寺 秋

短歌

京都でも大学教職員、学生ら「反安保集会・デモ」

新聞の死亡記事見て辟膿痛とあればあの人もとくり返し読む

阿川さんの本十冊余は愛蔵す「雲の墓標」より「天皇さんの涙」まで

（阿川弘之さん八月三日死去）

京都でも「安保法制許さじ」と十余の大学生ら集ひ訴ふ（八月六日毎日新聞、京都市南区で午後八時四九分、学生を含む写真報道）

高校の同窓会

山本晶子 背が縮みズボンの裾を五センチ上げ古き靴はき同窓会に

卒業生は三〇名、逝去者は四九名、われの学年（昭和三五年卒業）

黙祷は長く続きてその後には生者われらは憂を始む

高校生も

叶岡淑子 まっすぐに未来を見つめ若者ら戦争ノと立ち上がる夏

渋谷デモ高校生も声あげる勝手に決めるな私らの未来

平和願う熱き思いはつながらりて「短歌九条の会こうち」誕生

初月農園だより

猛暑に収穫する野菜 島本 聡

連日最高温度36度の猛暑が続く。設定温度28度の制限を受けながらも一度その冷気にあたる農作業をする気にはなれない。ビニールハウスの中は50度以上になっていて、吊るしていたアルコール温度計は3つともパンクしている。だがこの猛暑でも頑張っている。収穫可能な野菜はある。わが農園の夏に収穫する野菜BEST3を紹介しよう。

BEST1・オクラ

花はうす黄色のハイビスカスや芙蓉のよう（同レジャオイ科）朝に咲けば夕方にはポロリと落ちそこはもう実ができてはじめています。店をよく見かけると角に筋がでかたくなる。角のない丸型オクラは、少々大きくなっても、角の筋がなくやわらかい。収穫時期も4か月ほどで家庭菜園にはおススメ。さっと湯がけば料理はおわり。あとはマヨネーズを添えるだけ。

BEST2は・ニラ

種から育てると大きくなるのには10か月以上要するが、その後収穫は年に数回でき、栄養価も高い。アサリのパックと、そのまま炒めれば、塩味もついていて、手抜き料理には最適。他にもいろいろレシピあり。

BEST3は・ナス

3月中旬のころ12穴トレイに1粒づつ丁寧に蒔き、加温する。90パーセント以上発芽する。トレイに苗が溢れだしたころ、9cmポットに移す。捨てるのが勿体ないと育てた苗を全て畑に定植したところ、その数なんと380本。収穫も大変。もらってもらうのも大変、「こんなにつくって」というご機嫌なための奥の機嫌をとるのも大変。私の唯一できる料理は、乱切りにしたものを油で炒め、かつおぶしのだしに、さ、し、す、の順に味をつける。高価なうなぎのかば焼きと同じくらいおいしい。今年は台風対策に深い剪定をしてやった。おかげでこの猛暑での収穫はなく苦勞もない。剪定後にできる「嫁に食わずな」と云う小ぶりの秋ナスが待ちどおしい。